

# うめきた2期区域中核機能について ( 中間報告 )

# 中核機能の検討

## 「みどり」と「イノベーション」の融合拠点形成に向けて

### ■新産業創出

- ①うめきたの立地と海外クラスター
- ②1期ナレッジキャピタルと2期イノベーション拠点  
～相乗効果による新産業創出～
- ③中核機能の構成  
～誘致すべき機関と総合コーディネート機関～
- ④テーマの考え方

□知的人材育成

□国際集客・交流

## 2期区域のまちづくりの目標(「まちづくりの方針」より)

### 「みどり」と「イノベーション」の融合拠点

#### □世界の人々を惹きつける比類なき魅力を備えた「みどり」

- まち全体を包み込む「みどり」がここにしかない新しい都市景観を創出し、多様な活動、新しい価値を生み出す源となり、世界の人々を惹きつける。

#### □新たな国際競争力を獲得し、世界をリードする 「イノベーション」の拠点

- 世界の人材、技術を集積・交流させ、新しい産業・技術・知財を創造することで新たな国際競争力を獲得し、我が国の成長エンジンとして世界をリードする「イノベーション」の拠点になる。

# 概論(うめきた2期中核機能がめざすもの)

- 関西には、イノベーション創出のためのリソースは豊富だが、分散している
- 世界レベルで見ると関西はひとつのクラスター
- 関西のリソースを繋ぎ、機能を充実させ、関西を本当にひとつのクラスターに

## 関西の強みを活かした先端産業の活性化

### うめきたのアドバンテージを活かす

- 優れた立地特性: 神戸・京都とも30分圏内、新駅の設置⇒関空直結
- うめきた1期ナレッジキャピタルの取組み、成果
- 特区を活用した取組み
- 1日240万人の乗降客数を有する関西最大の交通の拠点
- 世界の人々を惹きつける比類なき魅力を備えた「みどり」

**うめきたの抜群の「集まりやすさ」「使いやすさ」等を活かし、  
世界に目を向けた拠点になる**

# 中核機能検討の経緯

H26年12月

## 第6回大阪駅周辺地域部会

“中核機能について深掘り検討する場を設ける”

H27年1月～

## 中核機能についてヒアリングを実施

H27年 7月～9月

## 準備会開催

H27年 9月

## 中核機能推進会議設置

H27年10月

## 第1回中核機能推進会議

中核機能のあり方について

# 中核機能推進会議メンバー

(敬称略 あいうえお順)

(有識者)	小寺 秀俊	京都大学 教授
(有識者)	松田 一敬	合同会社SARR代表執行役員
(座長)	八木 康史	大阪大学 理事・副学長
(有識者)	渡辺 恭良	理化学研究所 ライフサイエンス技術基盤 研究センター長
	川田 均	大阪市 都市計画局長
	児玉 達樹	大阪商工会議所 常務理事・事務局長
	齊藤 行巨	関西経済同友会 常任幹事・事務局長
	芝池 利尚	大阪府 住宅まちづくり部理事
	西村 志郎	都市再生機構 西日本支社長
	松村 孝夫	関西経済連合会 専務理事

# うめきた2期の中核機能（「まちづくりの方針」より）

## □新産業創出

- 技術・情報の集積・発信と異分野コラボレーション・知的交流・共同事業を展開

## □知的人材育成

- 産学官連携による研究、技術開発や事業化支援、国際色豊かな環境づくりなどにより、グローバル人材を育成、輩出

## □国際集客・交流

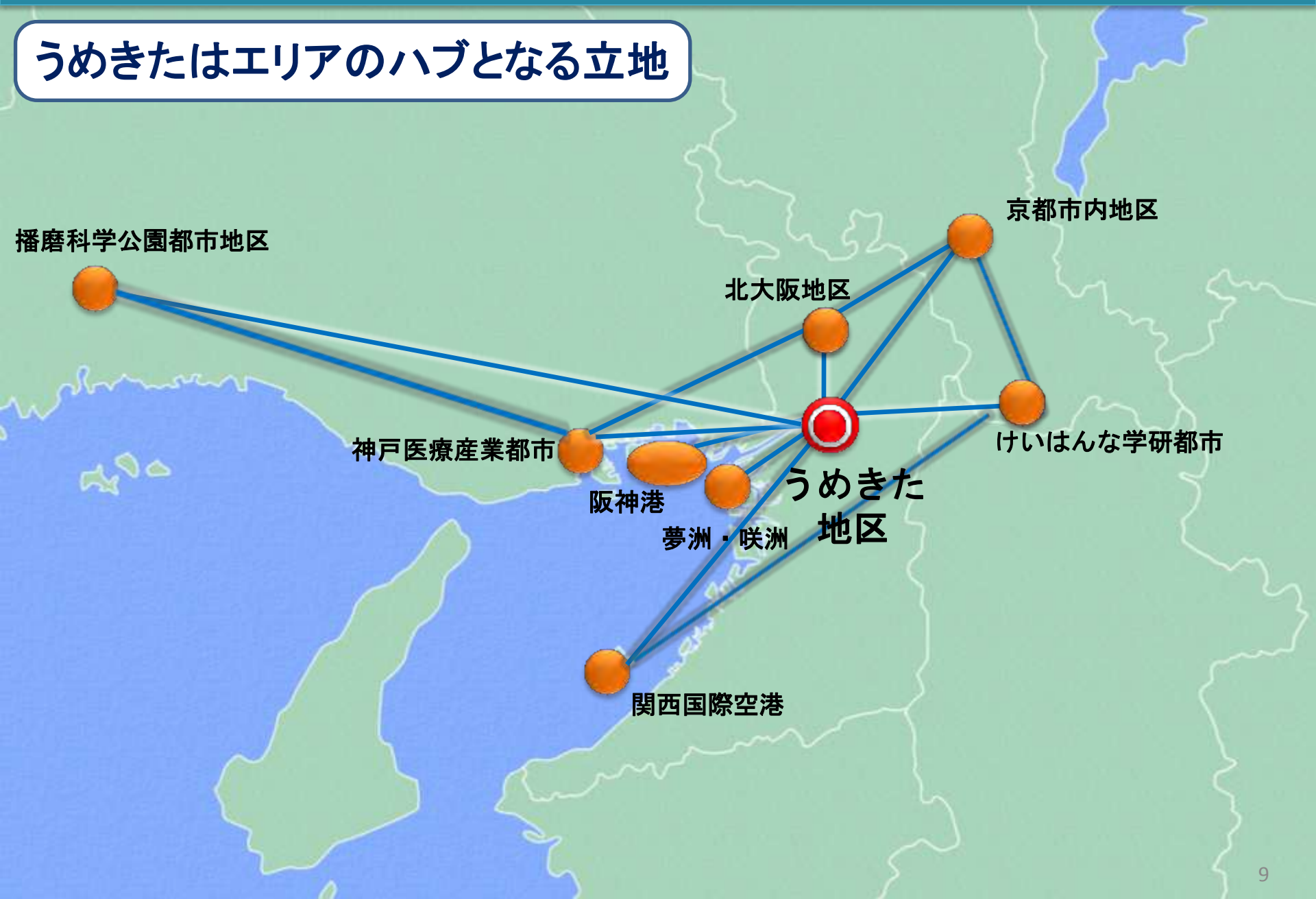
- 国際的な企業・産業活動、研究・学会活動等を誘致し、創造的な活動を展開、発信

## ①うめきたの立地と海外クラスター

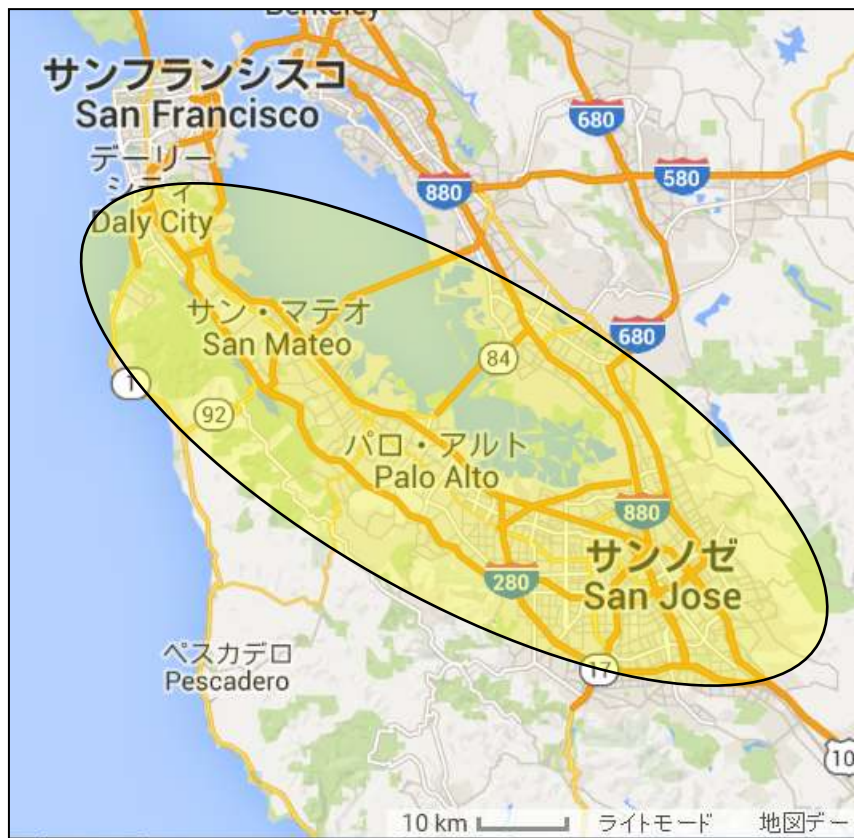


# 関西には、イノベーション創出のためのリソースが豊富

うめきたはエリアのハブとなる立地



# 世界レベルで見ると関西はひとつのクラスター



←シリコンバレーの範囲  
(4,800km<sup>2</sup>)



同縮尺の関西→

# 世界のクラスターの取組み

- 産業クラスターとは、企業・大学・研究機関・自治体などが、地理的に集積し、相互に結び付くことにより、イノベーションを創出する産業・事業群のこと。

## 地域資源を活用した産業クラスターの例

- オランダ フードバレー
- オーストラリア ビクトリア州STC
- イギリス ロンドンTech City、MedCity

**大学・研究機関の成果を事業化に結び付ける  
取組み ⇒ 世界との競争に！**

## ～海外のクラスターから学ぶ～

### □オランダ フードバレー(Food Valley)

- 首都アムステルダムから南東約85kmワーヘニンゲンを中心とするエリア
- 顧客志向で商品やサービスを創造する世界規模の食品開発拠点をめざし、科学者8,000人、研究機関20機関、食品関連企業1,500社、化学企業70社を超える集積に成長



歴史的に強みのある食品産業の集積を活かし、わかりやすいコンセプトを掲げたことで、知名度が向上し、地域クラスターの形成に成功した。

食関連の知のネットワークの形成、EU市場へのゲートウェイとして機能

オランダの国土は九州より小さいが、  
食品産業の規模は470億ユーロ、  
農産物の輸出額は230億ユーロ(世界第2位)に成長

## □オランダ フードバレーを支える機関

### ワーヘニンゲン大学リサーチセンター

ワーヘニンゲン大学を中核に2大学5研究機関で構成

顧客志向の研究開発を推進し、フードテクノロジー分野で突出した実績

### フードバレー財団

食品業界をけん引する数社と、オランダ政府、地方自治体等が連携して設立  
地域の産学官を結ぶワンストップ窓口やコーディネート役を担っている

#### 【ミッション】

- 企業と研究機関を結び付けるネットワーク機能
- 革新的プロジェクト支援、起業サポート
- 国際的提携関係構築
- 成果の紹介、普及

会員企業を拡大(147社、2014年12月末現在)、年々拡大し、日本の大手企業も会員となっている。

# □豪ビクトリア州STC(Small Technology Cluster)

- モナシュ大学、メルボルン大学等のライフサイエンス分野の知見が事業化・実用化されにくいという課題に対応した、インキュベーション施設を設置
- STCは保証有限責任会社という形態の民間組織
- 大学に近接して開設、事業化に向けたワンストップサービスを提供

## 【成功のポイント】

- 医療ベンチャーの知見がある民間人がCEOに配置されており、CEOの下に人が集まっている。
- STCの役割りは交流、事業化までの一式をハンズオンで支援。
- 施設内にデザインセンター(※)等を有し、地域の企業のサポート役を担っている。  
(※デザインセンター:研究成果に付加価値を付ける助言等を行い、事業化を支援する)

## ～海外のクラスターから学ぶ～

### □英ロンドン メッドシティ(MedCity)

- 金融中心の産業構造にもう一つの中心産業をつくることを志向
- ロンドンには世界有数のアカデミアやメディカル企業が多数集結しているが、商業化・実用化の面で弱く、アメリカに遅れをとっているという課題認識
- オックスフォード、ケンブリッジ、キングス、インペリアル等大学の優れた技術を商業に結び付けるための戦略。
- MedCityはロンドン中心部「ユーストン・ロード」周辺の名称。ライフサイエンス分野の企業等の更なる集積を図る。
- MedCity社はユーストン・ロード沿いの一画に、ロンドン市、King's Health Partners研究所、インペリアル大学健康科学センター等の支援を受け、設立されている

**大阪・関西も大学・研究機関の豊富な知見・技術の事業化が課題  
海外では、先駆的な取組みを行っている**

## ～海外のクラスターから学ぶ～

### 【まとめ】

- 産業分野に関する地域の強みと課題を認識し、わかりやすいテーマ(コンセプト)を掲げて活動している。
- 卓越した研究機関とクラスターの中核となる組織があり、CEOのリーダーシップのもと、さまざまな主体を結びつけ、ビジネス化を促進するコーディネート機能を発揮している。
- 交流、開発支援、開発資金の窓口など事業化までの一歩をハンズオンで支援する機関と、サポート機能をもつ企業等が近接して、活発に活動している。



# ② 1期ナレッジキャピタルと 2期イノベーション拠点

～相乗効果による新産業創出～

# うめきた1期ナレッジキャピタルの取組み

- 平成21年、開発事業者12社の出資でKCP運営企画法人(現株KMO)を設立
- 平成24年、一般社団法人ナレッジキャピタル設立
- ナレッジキャピタルの参画者は大学、研究所、企業、士業など100者を超え、日々様々なイベントが開催されている。

## □ ナレッジキャピタルの取組み

- 平成25年4月「ナレッジキャピタル」開業
- イベント・セミナー等の開催を通じ、交流機会の「場」を提供
- 海外からの視察、25カ国 73団体
- ナレッジサロン会員数は約2,000人(平成27年9月末現在)
- うめきたの知名度向上に貢献

## □ 大阪市の取組み

- 平成25年4月「大阪イノベーションハブ(OIH)」開設
  - グローバルイノベーション創出支援事業(※)を実施
  - イベント200回/年、来訪者は累計3万人(平成27年8月末現在)
  - 起業コミュニティの形成に成果
- ※世界中から人材・情報・資金を集め、イノベーションにつながるプロジェクト創出支援を実施

**多様な人材の集積機能に強み**

# イノベーション創出に向けた1期との連携

## ■1期ナレッジキャピタル

IT分野に代表されるように、短期間で事業化の目処がたつ事業を対象とする案件が多い。

## ■2期イノベーション拠点に備える機能

- 大学や研究開発拠点の技術シーズを活用する仕組み
- 期間と資金を要する案件の事業化を支援する仕組み

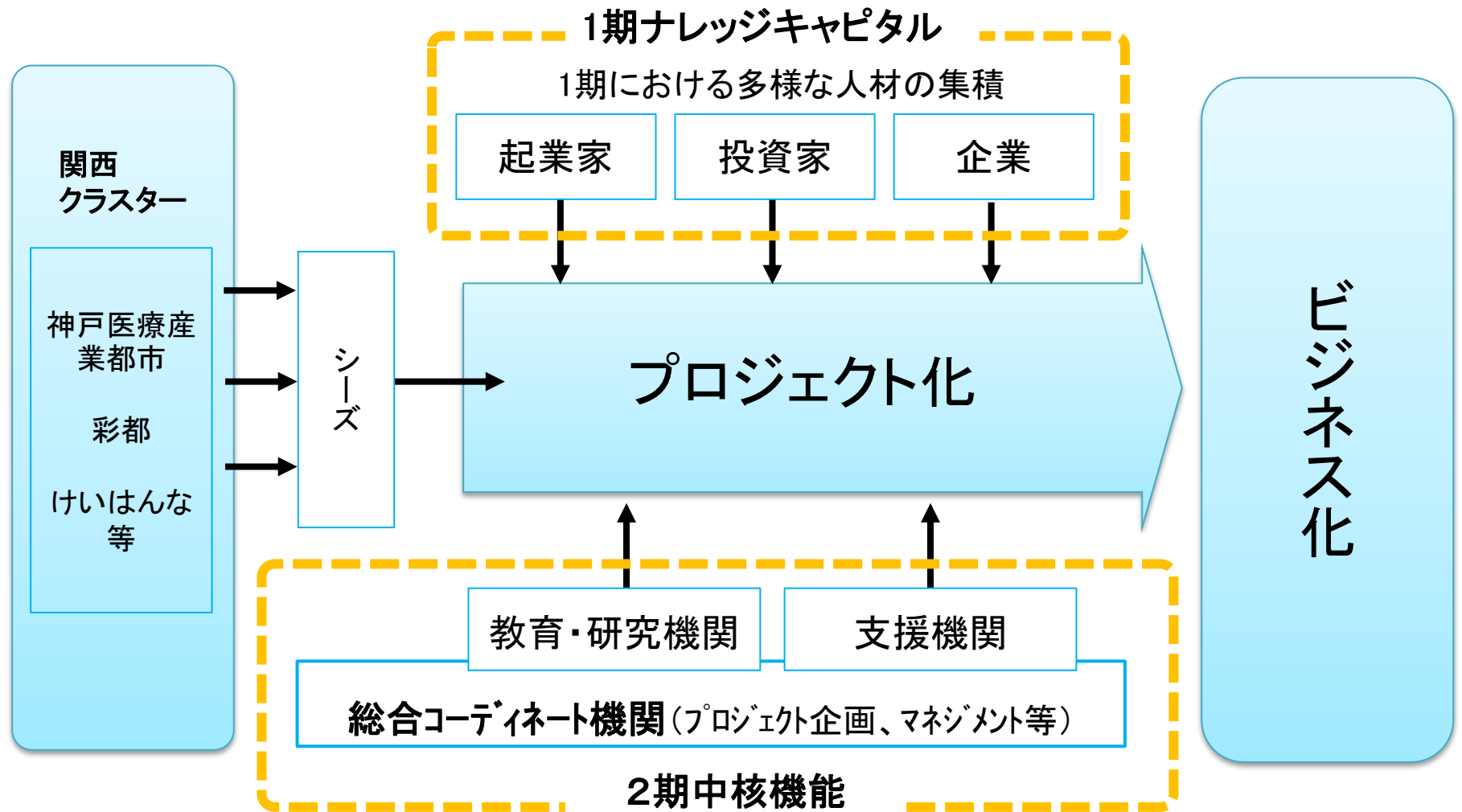


**相乗効果で、うめきた全体の強みを発揮  
全国初の都心型イノベーション拠点を形成**

## ③中核機能の構成

～誘致すべき機関と総合コーディネート機関～

# うめきたの立地を生かした新産業創出



新産業創出

## うめきた2期の中核機能(教育・研究機関の誘致)

- 海外クラスターの取組み事例から見ると、研究者の周りに様々な人が集まる仕組みを作ることがイノベーション創出の鍵
- 「多様な人々が集積している」うめきたに、研究者・開発者などが、必要な期間 常駐して活動する場を設ける

**都心ならではの強みを活かした  
イノベーション創出を促進するために、  
教育・研究機関の誘致が必要**

## うめきた2期中核機能(支援機関の誘致)

- 海外クラスターの取組み事例からみると、事業化に至るまでの様々な支援措置を総合的に活用できる仕組みが必要
- 事業化支援の仕組みを充実すれば、うめきた1期の「多様な人々の集積」を活かすことが可能に



**自らの事業として事業化支援を行う機関の誘致が必要**  
支援機関の例)国の機関、大商(医薬品・医療機器開発促進事業)

## うめきた2期中核機能(総合コーディネート機関の設置)

- 関西のクラスターに点在するリソース(知的資産)を事業化に結びつけるための「つなぎ役」が、うめきたに必要
- 研究開発資金(国の競争的資金等)の獲得・管理など、プロジェクトの企画やマネジメントを行うことにより、期間と資金が必要な案件の事業化も可能に



**中核機能を担い、イノベーション創出のための  
総合コーディネートを行う機関の設置が必要**



## うめきた2期の中核機能(総合コーディネート機関の設置)

- 中核機能を担う機関(総合コーディネート機関)の設置や国の機関の誘致など、中核機能の実現は、うめきた2期の民間開発事業者の取組みだけでは難しい
- うめきたを超えて「つなぐ」役割を持つ総合コーディネート機関の設置は、経済界が参画・支援し、開発事業者と連携するとともに、国の機関の誘致などは公民が連携することが必要



**総合コーディネート機関の設置をはじめ、中核機能の実現に向けて、産学官が連携した取組みが必要**

## まちびらきに先行した活動

- イノベーション拠点として機能する仕組み・人・ノウハウを蓄積するためには相当な時間が必要
- イノベーション拠点形成に必要なプレイヤーを獲得するためには、先行プロジェクトを実施する等により、関係者の関心を高めていくことが必要

**まちづくりの準備期間中から  
総合コーディネート機関を立ち上げ、  
継続して活動することが有効**

## ④テーマの考え方

## 「まちづくりの方針」におけるテーマの例

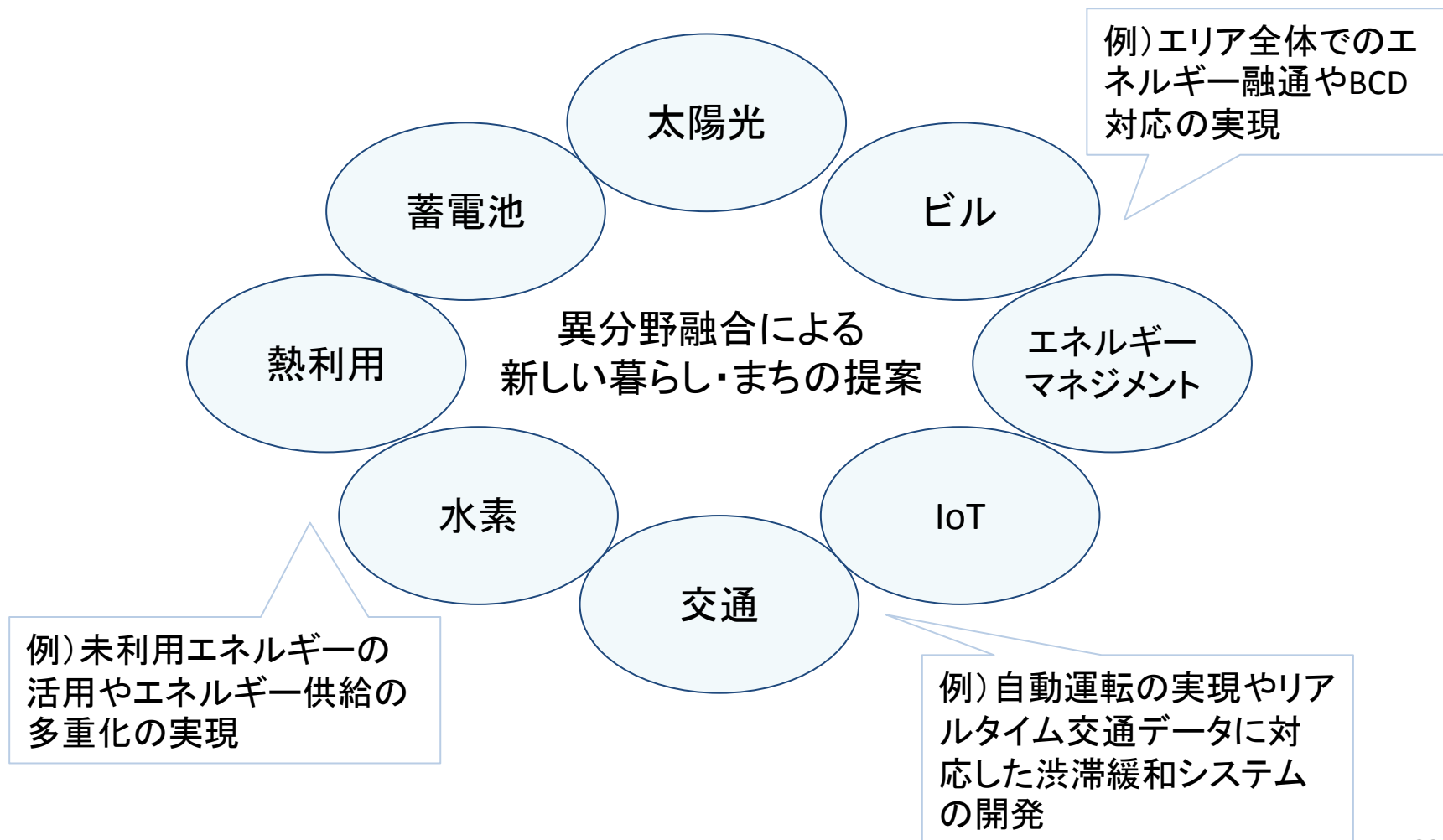
「まちづくりの方針」では、新産業創出のテーマとして、「健康・医療」、「環境・エネルギー」の2つを例示



産業分野に関する関西の強みを活かす  
観点等から検討

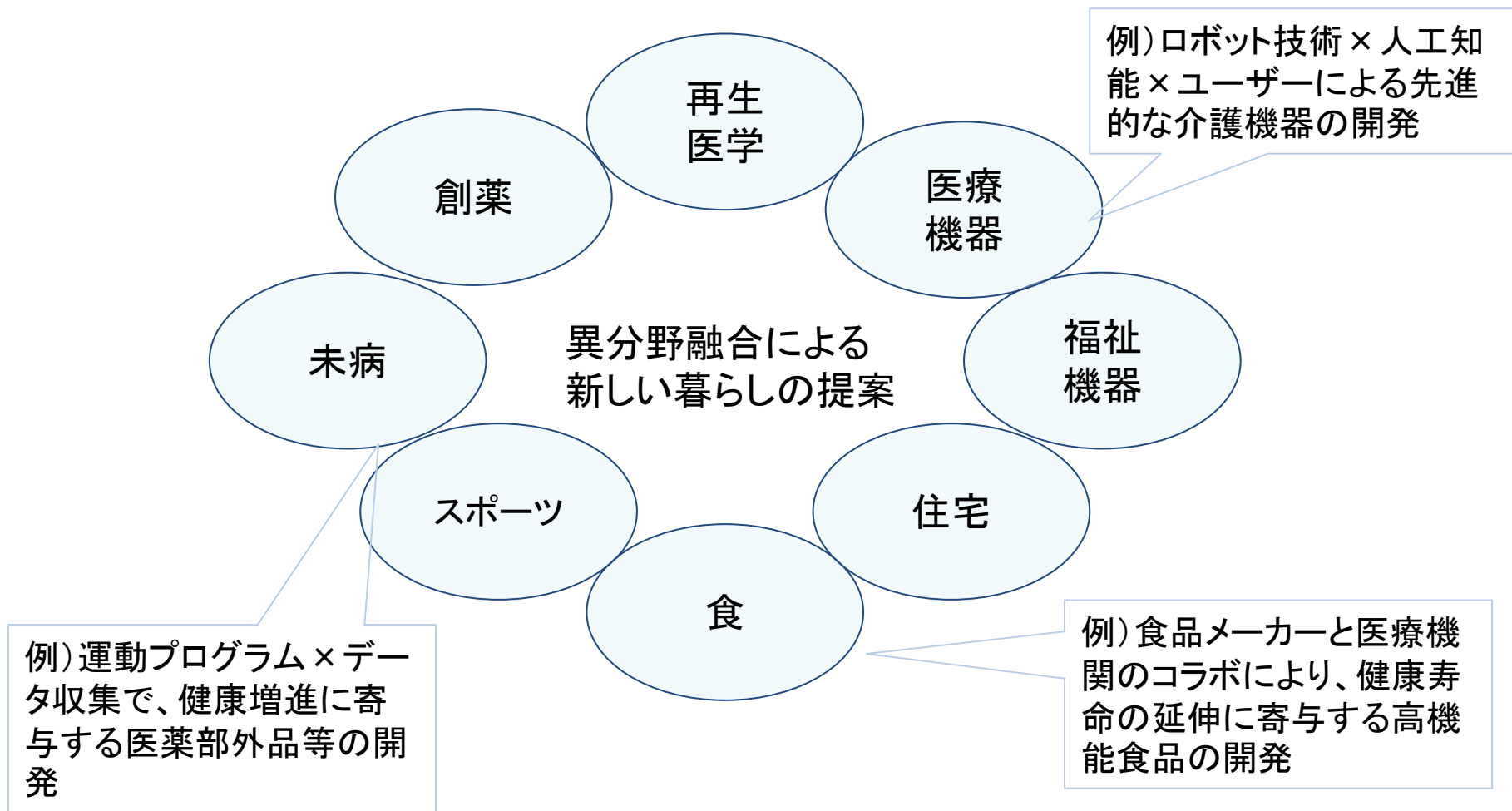
# 環境・エネルギー分野について

## ■環境・エネルギーは、暮らしやまちづくりに関わる研究分野



# ライフサイエンス分野について

## ■ライフサイエンスは、暮らしや生活にも関わる研究分野



# うめきた地区先行開発区域の取組み

## グランフロント大阪



### ナレッジキャピタル

- ・ザ・ラボ
- ・ナレッジサロン
- ・フューチャーライフショールーム
- ・ナレッジシアター
- ・カンファレンスルーム
- ・コンベンションセンター
- ・ナレッジオフィス
- ・コラボオフィス

## 特区の活用などにより国の機関が立地

- PMDA（独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 関西支部）
- AMED（国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 創薬支援戦略部 西日本統轄部）
- 雇用労働相談センター（創業を考えているグローバル企業等に対し、窓口相談や個別訪問相談、弁護士相談、セミナーなどを実施する機関）

## □ 関西経済連合会

- 「生き活き関西ビジョン」の策定
- 「関西健康・医療創生会議」の創設

## □ 大阪商工会議所

- ライフサイエンス分野で15年の実績
- 医薬品・医療機器開発促進事業の実施



## 取組み分野に関する検討

世界のクラスターは、わかりやすいテーマ設定をしつつ、  
多様な取組みを展開

- わかりやすいテーマを設定することで、発信力が高まり、専門人材が集まり、クラスターとして成功しやすくなる
- ライフサイエンス分野は関西のクラスターで先行的に取り組みられており、強みがある
- うめきた2期のまちびらきまでには、6年以上の期間が必要であり、時代によって取組むべきテーマや分野が変わる可能性がある

## まとめ(中核機能のあり方)

- うめきた全体のイノベーション創出力、まちのブランド力を高めるため、2期中核機能としては、技術開発を伴うような新事業創出力を高めることが有効
- そのために、教育・研究機関やイノベーション創出を支援する機関を誘致するとともに、活動をサポート・マネージメントする総合コーディネート機関の存在が不可欠
- イノベーション拠点にはわかりやすいテーマ設定と、柔軟に時代のニーズに対応できるしかけが必要

## 今後のスケジュール

引き続き、中核機能推進会議において

- 新産業創出機能について検討を深める
- 知的人材育成機能や国際集客・交流機能についても検討を進める



**年度末をめぐりに検討をとりまとめ**